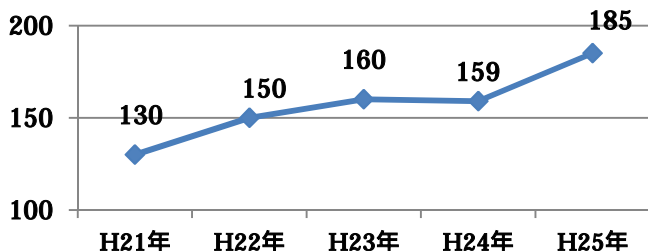


社会福祉施設における転倒、腰痛災害を防止しましょう！

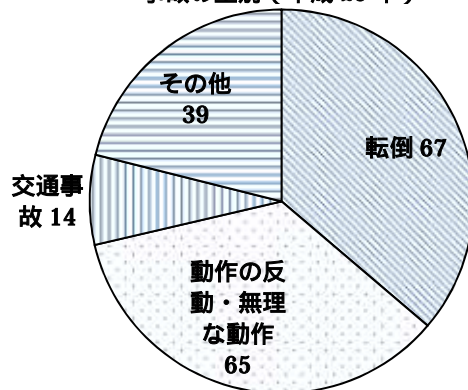
社会福祉施設の労働災害の現状



「転倒」、「動作の反動・無理な動作（腰痛等）」が7割強を占めています。

社会福祉施設の労働災害件数は、5年間で4割以上も増加しています。

事故の型別（平成25年）

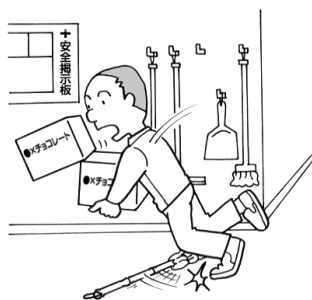


転倒災害防止のポイント



床の水等は、すぐ拭きましょう。

通路、出入口等に物を置かない。



床面等の段差をなくしましょう。

腰痛予防のポイント



移乗介助

移乗介助では、抱え上げに加え、腰のひねり、前かがみ・中腰といった不自然な姿勢が生じ、腰部に強い負荷がかかります。

複数で介助または福祉機器（リフト、スライディングシートなど）を活用しましょう。

入浴介助

入浴介助では、頻繁に前かがみ、中腰、体幹のひねりなどの不自然な姿勢が生じます。

床面が滑りやすいので、バランスを崩して、急性腰痛発症のリスクが高まります。

特殊浴槽やリフトなどを活用しましょう。

滑りにくい作業靴を履く、滑り止めマットを使用



図の出典：職場の安全サイト



トイレ介助

トイレ介助では、頻繁に前かがみ、中腰、体幹のひねりなどの不自然な姿勢が生じます。

手すりや立ち上がり補助リフトなどを活用しましょう。

清拭、体位交換、清潔整容介助、食事介助

清拭、体位交換、清潔整容介助、食事介助では、頻繁に前かがみ、ひねり姿勢が頻繁に出現します。

介護者の前屈みをできるだけ小さくし、利用者に近づいて作業しましょう。

ベッドは壁につけず、人が入れる程度の隙間をあけましょう。(反対側から作業ができます。)



利用者が椅子に座っている場合では、介護者も椅子に座るか、膝をついて(前屈みを小さくできます。)作業しましょう。(膝をつくときは、膝あて付きのスポンを着用しましょう。)

歩行介助

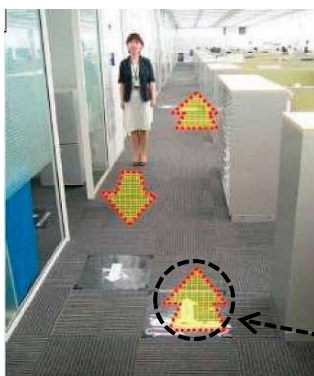
歩行の介助では、利用者がバランスを崩したときに共倒れになる危険性があり、またとっさに力が入ることで腰痛が生じやすくなります。

利用者と介護者双方に持ち手つきベルトを装着してお互いが持ち手を握りましょう。転倒した場合は、複数で対応しましょう。利用者が立ち上げられるようであれば、椅子などを活用してゆっくり立ち上がりを介助しましょう。

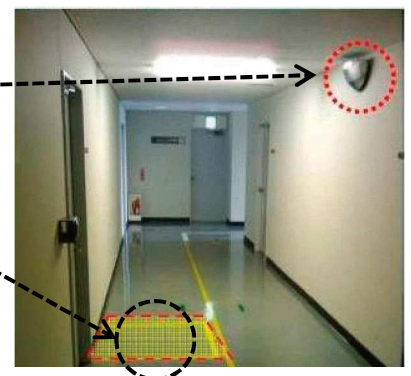
「見える」安全活動のすすめ

職場に潜む危険などは、視覚的に捉えられないものが数多くあります。それらを可視化(見える化)することで、より効果的な安全活動を行うことができます。これを「見える」安全活動と言います。

「見える化」は、危険認識や作業上の注意喚起を分かりやすく知らせることができます。



出入り口等の衝突防止の確認ミラー



台車停止ゾーンの明確化

右側通行の徹底のための表示

安全活動を中心となって進める「安全推進者」を選任しましょう!